

近江商人の知恵と理念を現代に生かす情報紙

AKINDO委員会

さんぽう

三方よし

第19号

2001/9

CONTENTS

特集 近代近江商人の危機管理	2~4	国際AKINDO会議2001	6
金言名句®	4	ビューティフル・ビジネスプラン コンペティション	8
滋賀大学産業共同研究センターと 滋賀ベンチャーズ・インフラ21	5	てんびん棒	8



住友を退職した伊庭氏は、大阪中之島図書館を設計した野口孫市設計の別荘を大津市石山に建て、晩年はここで暮らした。現在は住友活機園になっている。

三方よし 「三方よし」は近江商人共通の経営理念。「先手よし 買い手よし、そして世間よし」の精神で地域社会に大きく貢献した。本紙は近江商人を代表する理念を表題としている。

特集

近代近江商人の危機管理

近江商人という定義からは外れてはいるが、近代日本の経済界で活躍した近江出身の人たちがいる。近江商人は、かつて本家を近江に置きながら全国各地で商売を行ってきたが、明治に入ると、事業の中心地が本拠となり、住まいも事業中心地周辺に移っていった。そして、新しい時代に興隆した企業に勤め、やがて日本の経済界を支えた人々が登場してきた。これら近代日本の経済基盤を支えた近江出身者の存在が今、大きく注目されている。

これらの一人が前号で紹介したトヨタの石田退三であり、そして住友の近代の基盤を築いた二人の総理事であった。いずれもが日本人には珍しく危機管理ができた人物とされている。

住友の近代化を築いた

広瀬宰平と伊庭貞剛

滋賀県の中主町八夫の中心部に密やかに立つ石碑には、近代住友の基礎づくりを行った二人の出生地であることが刻まれている。

広瀬宰平・初代住友総理事（一八二八〜一九一四）と広瀬の甥にあたる伊庭貞剛二代住友総理事（一八四七〜一九二六）は、ともに野洲郡中主町の出身であることから、平成十年、地

元の有志によって伊庭の母親の実家があったとされる場所に石碑が建てられた。

広瀬宰平は九歳のころまで八夫で過ごし、明治維新の動乱期には、財政難に伴う住友銅山売却案に反対し、高山技師を要請するなど、外国資本に頼らずに住友の財政を再建させた。

一方、伊庭貞剛は七歳の頃まで八夫で暮らし、銅山の煙害問

近江商人の危機管理

創業四百年以上の歴史を誇り、八幡商人を代表する山形屋西川家でも、長い年月の間には経営の危機は何度となくあった。とりわけ、寛政の改革の頃の深刻な不況期には、大変な経営危機に陥ったが、七代目当主の西川利助（一七四六〜一八二五）は、経営組織の大改革を行い、不時の出費のための普請金・仏事金・用意金の三つの積立金制度をつくり、奉公人にも一種の奨励金を配当する「三ツ割り銀」制度を取り入れて、経営刷新を図った。

また、五個荘町の小杉五郎右衛門は、主要商圏であった金沢藩の領内に貸借を破棄するという棄損（きえん）令が出されたとき「この困難がチャンス」とばかりに、他の商人が金沢を敬遠していた時に大量の商品を仕入れ、金沢に出かけて歓迎され、さらには負債金を支払う人まで現れたという。苦境こそが商いのチャンスがあるという近江商人らしいエピソードが残る。近江商人の多くが、長きにわたり家業を存続させてきた過程には、経営苦境に落ちいった時の対処が的確に行われてきたことはいまでもないことであった。

題に取り組み、一八九四年に総理事になったが、その引き際の鮮やかさが語りぐさとされる。ともに住友を支えた人物であり、石碑には二人の業績を表して「不撓（とう）の思想をもち、倫理を実践した」と書かれている。

住友の集団指導体制のはじまり

の別子銅山の経営が不振となり、さらに天保の改革で江戸の金融業も大きな打撃を受けて倒産の恐れもあった。こうした事態に直面した住友では集団指導体制がとられ、経営危機を背景に、以降、住友家の番頭政治が強まっていた。

江戸時代後期、住友家は本業



伊庭貞剛



広瀬宰平

大胆なりストラと金融再建 — 広瀬宰平の経営 —

別子銅山の申し子ともいえる広瀬は三十八歳で別子銅山の支配人となるや、本店よりも早く、能力主義人事を採用し、別子銅山近代化のために外国人雇い入れなど積極的な事業展開を行った。

業員への配慮には一段と記を配り、明治二年の「諸事一心」の危機突破対策でも思い切ったリストラを実施しながらも、従業員志気高揚と福祉対策を忘れることはなかった。

広瀬宰平の足跡

明治維新直後の住友は、旧大名などへの再建や政府借用の買請米代金など多額の借金を抱え、経営は火の車であった。これら債権や借金を緩和するため、可能な手段をつくして経営の危機に立ち向かったのが広瀬であった。別子の再建と近代化を目指して、別子山内限りの私札である「山銀札」を発行して金融緩和に努め、さらに西洋の技術の導入の必要性を感じて外国人を雇用し、住友の事業結集を計るため、不採算事業であった東京の両替商や浅草札差店の金融部門を閉鎖している。事業が困難であっても、国家のために必要な事業を成功することこそが企業の責務であるとの自覚をもって対処してきた。

十一歳から別子で生活をしてきた広瀬は、現場重視主義と従

文政十一年（一八二八）近江国野洲郡八夫村に生まれ、別子銅山勤務の叔父北脇治右衛門の養子となったが、九歳の時、叔父に従って別子銅山登り、天保九年（一八三八）、十一歳の就業年齢に達するや、住友家に奉公することになった。

安政二年（一八五五）、二十八歳になった宰平は、住友家の当主の推挙で広瀬義右衛門の養子となり、慶応元年（一八六五）三十八歳で別子銅山支配人となった。その間仕事の合間に独学で漢学を修め、中国の古典によって経営の神髄を学んだ。幼い頃から、別子の山に住み、坑内にもたびたび入り、ここには膨大な宝の山の鉱脈があることを知っていた。デスクワークだけ



住友中興の祖の出身地中主町八夫に建つ顕彰碑

で昇進したのではなく、別子の申し子ともいえる人生を歩んできたのであった。当時、住友の銅山経営は、幕府の銅座によって管理されている国策事業であったが、広瀬にとっては新政府の別子銅山の接収に強く抵抗したのは無理からぬことであった。

謂之忠」であったが、激動の明治新政府は、「逆命利君」の人材で構成されていたともいえ、広瀬が行った人事も自分と同様、本当の忠義をもって仕事を進める人物を用いた。広瀬の甥にあたる伊庭貞剛はこうした一人であった。

環境問題の先駆

— 伊庭貞剛の信念 —

住友の経営危機を脱し、別子銅山の積極的な事業展開を行った広瀬ではあったが、体制側との摩擦などから社内には混乱した空気があった。こうした中で伊庭の温厚な采配によって混乱から脱却することになった。

界から登用された伊庭は、実業家らしくない経歴ではあったが、それだけに無用な先入観がなく住友の事業の多角化、近代化に果敢な決定をくだした。

そして事業が軌道に乗ると「事業の進歩発展に最も害をなすものは、青年の過失ではなく

て、老人の跋扈（のさばりはびこることの意）である」とのこ
とばを残して五十八歳で引退し
た。わずか四年の在任で、その
後は大津市石山の別荘で晩年を
送っている。

国土に報いる植林事業

「この山をこのまま荒れ果てた
状態を放置するには天地の大道
に背くこと」であり「国土に報
いる」事を目的として本格的な
植林を開始した。明治三十二年
には植林面積は二百八町歩にお
よび、その成果によって今日の
別子は太古の緑を戻している。

煙害対策としての 精錬所移転

伊庭が、総理事になった頃の
別子では、鉱毒水や鉱煙による
公害が問題となって地域住民と
の紛争が起こっていた。明治中
期までの鉱山業は精錬の燃料と
して多くの木を伐採し、さらに
山では硫黄を含む鉱石を焼いて
いたので、別子の山は一面禿げ
山となっていた。

伊庭は新居浜に着任するや、

煙害の公害は、地域の農業に
被害を及ぼし、大きな問題とな
っていたが、伊庭はこの煙害に
対して「農鉱併進」の姿勢で臨み、
伝来の土地を耕作する農民も、
鉱脈のあるところで操業する企
業もお互いが共生する道の必要

伊庭貞剛と西川貞二郎

近江八幡西宿にある、かつての伊庭家の
邸宅跡には、天にそびえるクスノキが残る。
伊庭貞剛の父はこの代官で厳格な教育者
でもあり、母の実家が中主町八夫であった。
貞剛は母の実家で7歳まで暮らし、その後
西宿に移り、ここから国学者西川吉輔の私
塾に通った。西川吉輔門下生の中に西川貞
二郎がいて、ここで知り合った二人は、生
涯の友として経済界の牽引者として活躍し
た。北海道開発を始め、県下の殖産事業を
いくつも手がけ、近代企業家として華々し
い活躍をした貞二郎について、貞剛は「近
江商人の典型。彼をおいて他になし」とい
っている。貞剛が創立した大阪商船の筆頭
株主は貞二郎であった。

性を説き、公害対策の一環とし
て瀬戸内海の孤島四阪島を買収
して精錬所の移転を敢行した。

企業は社会の利を目指す

伊庭は銅山の環境問題を解決
するとともに、住友銀行の創設
や住友倉庫の設立など近代化・
多角化を推進し事業を大きく発
展させたが、事業はひとり住友

だけに利を得るにとどまらず、
国に利があり、社会にも利益を
もたらすべきものであることを
目指した。

近代住友の基礎を築いた二人
の近江出身の実業家は、同じく
一企業の利益に固執せず、広く
社会が益する方向を目指してい
た。彼らの中にも江戸時代から
続く近江商人の共通の経営理念
が受け継がれていたといえよう。

近江商人の金言名句⑩ 逆命利君 謂之忠

（命に逆らっても君を利す、之を忠と謂う）

広瀬宰平が亡くなる前年の大正二年（一九一三）に揮毫し
た言葉。広瀬の終生の座右の銘であった。本當の忠義とは、
上司や主君の命令、たとえ国家の命令であっても、それが主
家のため国家のためにならなければ、あえて逆らうべしとい
う強い意志が表れている。これは中国の古典「説苑」にでて
くる四つの言葉のひとつで、その対局にあるのが「従命病君、
為之諂（命に従いて君を病ましむる、之を諂と為す）」という
言葉である。「諂」とはへつらうことで、へつらうて命令に従
うのは、主君を病ましめ、国家を腐敗に導くということであ
る。広瀬はおべっか遣いのイエスマンを最も嫌い、明治三年
の大阪本店の新年宴会では旧習に凝り固り、時代の変化を認
識していない無流盾の体質の人々にたいして「変革なしでは
滅亡する」という意味の言葉を発している。ナンバーファイ
ブであった広瀬が総理事となつてからは、「逆命利君」の志
士を広く登用し、近代化を目指した。この時スカウトされた
伊庭貞剛は叔父広瀬を「元龜・天正の英雄」と評し、広瀬の
説く住友の事業精神に惚れ込んだ。

滋賀大学産業共同研究センターと 滋賀ベンチャーズ・インフラ21

近江商人研究の総本山ともいえる滋賀大学経済学部からは多くの近江商人研究者が生まれ、また附属資料館には多くの文書をはじめとする資料が保管されている。本年滋賀大学に現代産業界との接点ともいえる施設が誕生した。



■ホームページ紹介■

「滋賀大学産業共同研究センター」 <http://www.biwako.shiga-u.ac.jp/jrc/>
 「滋賀ベンチャーズ・インフラ21」 <http://svi21.biwako.shiga-u.ac.jp/>

滋賀大学産業共同研究センターは、この四月から文部科学省の省令施設として新たな活動をスタートしました。本センターは学内施設として平成五年十一月に人文・社会科学系の大学に先駆けて設置し、民間機関等との共同研究、フォーラム等を開催して、地域社会への貢献および産学連携を推進してきました。これまでに行われた共同研究は十二件を数え、フォーラムは企業経営革新フォーラムが十四

シリーズ（二シリーズ約四回開催）、環境フォーラム二シリーズ、その他三シリーズを開催してきました。これらの成果が文部科学省に認められ、この度、専任の教官を有し独自の予算の下で運営できる省令施設となったわけですから、それにとめない滋賀大学経済学部（彦根）の駿水会館内に新装オープンしましたのでお気軽にお立ち寄りいただければ幸いです。

このように産業界共同研究セ

ンターの主たる業務は共同研究などによる産学連携の遂行にあるわけですが、より密接に企業経営者や起業家のニーズに添えていくために中小企業・ベンチャー企業に対する経営指導や経営情報の提供を行う事業を新たにスタートさせました。現在、毎週一回（水曜日）午前十時から午後四時までの間、企業等からの相談を直接受けて相談に応じています。さらに、滋賀県周辺の弁護士、会計士、税理士、中小企業診断士、社会保険労務士、技術士、経営コンサルタントなどの専門家と連携して「滋賀ベンチャーズ・インフラ21」を組織化し、より強力な支援体制の整備に着手しました。

この度、企業経営者や起業家と専門家をインターネットで結びつける滋賀ベンチャーズ・インフラ21のためのポータルシステムをスタートさせました。当システムの経営相談システムでは相談案件をインターネットで受付、幅広い専門家の回答を得られるようにしております。このシステムが他の機関のシステムと大きく異なる点は、相談者の匿名性を保持しながら、幅広い専門家からの回答を直に取得

できる点です。従来のように紹介を受けた専門家からの回答に限定されません。また、ベンチャーズ・インフラ21に参加する専門家は、上記のフォーラムやセミナーを通じて最新の情報を得るという特徴もあります。当ポータルシステムでは、この他にも専門家の情報検索や助成制度を分かりやすく解説した情報の提供、さらに質問やそれへの回答を参加メンバー間で自由に協議できる電子会議システム（eサロン）なども実現しております。今後の体制強化に合わせて本システムの充実を図る予定ですので、暖かいご支援をお願いします。

以上のごとく、当センターでは技術、組織、情報および環境の諸システムに関する最新の学問的成果を民間企業等の機関に提供して共同研究をはじめとする各種事業を行うことにより、地域の産業界に貢献すると同時に、これら民間機関の現況、当面の問題等に接することによって、その成果を本学の教育・研究にフィードバックさせたいと考えています。

滋賀大学経済学部

谷口伸一助教授



夢を舞めんと滋賀

湖国21世紀記念事業

国際AKINDO会議2001

2001年10月23・24・25日

ホテルニューオウミ(近江八幡市)を中心に開催

時代を変革するAKINDO

— 多元的な企業の価値を求めて —

近江商人発祥の地の一つ近江八幡市を中心に、今日の社会が抱える課題に対して立ち向かう賢人を世界各国から招いて多角的な企業の価値を議論し、21世紀の企業家の理念や姿を全国・世界に問いかける「国際AKINDO会議2001」が開催されます。

滋賀県では、平成三年に滋賀県の無形文化財ともいえる「近江商人」の理念や商法を現代のまちづくりに活かし、新しい産業振興をめざした「国際AKINDOフォーラム」を開催し、新しい時代の都市経営やビジネスの方向性を討議しました。フォーラム開催後には、継続的に近江商人の理念を啓蒙啓発し普及するべくAKINDO委員会が設立され、各種講演会や研修会の開催をつうじた活動を展開してきました。

委員会が設立された時期、日本はまだバブル景気の影響が残っていました。やがて「失われた10年」と言われる長期的な不景気になり、今や日本のみならず世界的にも大変緊迫した経済状況となっています。そして社会の構造が大きく変わろうとしています。

さらに、企業の社会倫理が厳しく問われる現代でもあります。このような時代の経済社会への展望を共に考えようという趣旨で、再び「国際AKINDO会議2001」の開催を行うこととなりました。

詳しい日程は下記スケジュールをご参照いただき、多数のご参加をお待ち申し上げます。

国際AKINDO会議2001プログラム

10月23日(火)

●10時00分

講演「21世紀のAKINDO精神」

講師 松下電器産業株式会社代表取締役社長

中村邦夫氏

講演

「アカウンタビリティ: ビジネスの成果をどう捉えるか」

講師 英国、社会倫理説明責任研究所所長

リチャード・エバンズ氏

●13時15分

セッション「三方よし」

「三方よし」の理念を現代の視点で考え、時代が求める事業や企業の役割について「社会」「個人」「文化」の各視点別に3会場でのパネルディスカッションを開催。

■「社会とビジネス」

赤池学氏(㈱ユニバーサルデザイン総合研究所所長)、リチャード・エバンズ氏(英国、社会倫理説明責任研究所所長)、岩田桂氏(UD21にいがた世話人)、末永國紀氏(同志社大学経済学部教授)、岩崎実氏(㈱かんてんエルファーム代表取締役社長)

■「個人とビジネス」

竹村真一氏(東北芸術工科大学助教授)、サラ・オールセン氏(米国、カルフォルニア大学バークレー校ハースビジネスプランコンペティション 審査委員)、澤登信子氏(㈱ライフ・カルチャー・センター代表取締役)、西山浩平氏(エレファントデザイン 代表取締役)

■「文化とビジネス」

犬塚潤一郎氏(リベラルアーツ総合研究所)、パトリック・F・オドノヒュー氏(米国、元筑波大学教授)、ステファン・レオン氏(マレーシア、国際戦略問題研究所(ISIS) 副所長)、富田光彦氏(滋賀大学経済学部教授)、西尾久美子氏(エコ村ネットワーク副会長)

10月24日(水)

●10時00分

ビューティフル・ビジネスプラン・コンペティション表彰式

●11時10分

シンポジウム「21世紀AKINDOの課題」

講演 評論家 草柳大蔵氏

●13時

討論

コーディネータ・パネリスト予定者

井関利明氏(千葉商科大学政策情報学部学部長)、津田和明氏(関西経済同友会代表幹事、サントリー(株)副社長)、森建司氏(滋賀経済同友会代表幹事、新江州(株)代表取締役社長)、赤池学氏(セッション「三方よし」「社会とビジネス」コーディネーター)、竹村真一氏(セッション「三方よし」「個人とビジネス」コーディネーター)、犬塚潤一郎氏(セッション「三方よし」「文化とビジネス」コーディネーター)

◆参加申込みおよび問い合わせ先

「国際AKINDO会議2001」参加登録事務局

TEL 077-525-9000/FAX 077-525-9001

E-mail akindo@mx.biwa.ne.jp

詳しくは下記ホームページをご覧ください。

<http://www.akindo21.org/>

松下電器産業(株)社長

中村邦夫氏の基調講演

— 21世紀のAKINDO精神 —

今回の国際会議には、国内外から多彩な講師陣を迎えて開催を予定していますが、会議の幕明けは中村社長の基調講演から始まります。

松下電器は、その社会貢献活動や環境保全に対する取り組みが高い評価を受けている企業です。中村社長は彦根市出身で、大学では近江商人に関する研究をしておられました。昨年の社長就任以来、「破壊と創造」を掲げ、企業理念は継承して経営手法を刷新するという、21世紀

に生き残るための大胆な企業改善に取り組んでおられます。

「21世紀のAKINDO精神」というテーマで、新しい時代の経済社会の展望や企業のあるり方について、ご講演していただきます。

【中村邦夫氏の略歴】

昭和14年(1939)滋賀県彦根市に生まれる。彦根東高校を卒業、昭和37年(1962)大阪大学経済学部卒業後、松下電器産業入社。米州本部長(兼)アメリカ松下電器社長、AVC社社長を経て、平成12年6月松下電器産業社長に就任



国際AKINDO会議記念

非公開「近江商人屋敷」見学と再現「信長料理」の旅

- 日 時 2001年10月25日 9時～15時30分
- 参加費 5,000円
- 集合場所 ホテルニューオウミ(近江八幡市)

八幡商人の雄山形屋西川甚五郎家(通常は非公開)の見学と、華麗な庭園を有する迎賓館五個荘歴史民俗資料館での日本画特別展示を巡る旅。例年の探訪ツアーとは趣を異にしてバスで近江商人のふるさとを訪ねます。昼食には、織田信長の饗応料理を一部再現した料理を用意しました。

■予定コース
ホテルニューオウミ→五個荘町藤井彦四郎邸(五個荘歴史民俗資料館)→近江商人博物館→安土町で昼食→近江八幡市立郷土資料館→西川甚五郎邸→八幡堀→白牟礼八幡宮→ホテルニューオウミ

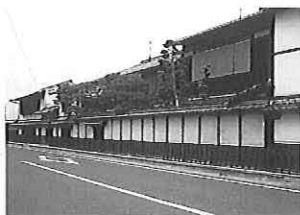
※参加人数に制限がありますので、お早めにお申し込みください。

■問い合わせ先

大津市京町4丁目1-1
滋賀県商工労働部AKINDO委員会
電話077-523-4641



五個荘町 歴史民俗資料館前庭



西川甚五郎邸

ビューティフル・ビジネスプラン コンペティション 「三方よし」の精神を活かしたビジネスプラン57件応募

時代を担う若者を対象に「ビューティフル・ビジネスプラン・コンペティション」へのエントリーを6月4日から募集を行い、7月6日に締め切ったところ全国から57チームのエントリー（事業概要書の提出）を受付ました。この中から、さらに進めた「事業計画書」を募集し、8月27日に提出を締め切ったところ、34チームの力作が寄せられました。これら34作品から今回、入賞・入賞候補の決定をいたしました。なお、最優秀作品の発表・表彰は10月24日「国際AKINDO会議2001」席上で行います。

入賞チームの発表

9月6日(金)第2回審査委員会にて「入賞チーム」が選ばれました。この審査委員会では高校生の部・大学生の部ともに4つの「入賞チーム」を選出する予定でしたが、非常に選び難く、最終発表プランとしてブラッシュアップされると、もっとよくなるだろうとより期待するチームを「入賞候補チーム」とさせていただきます。この中から最終審査にて残りの「入賞チーム」が決定され、さらに、これら「入賞チーム」の中から各部門1チームの最優秀チームを選出いたします。

入賞チーム

高校生の部

株式会社ゾール〈代表者〉東 悠介（滋賀県立八幡商業高等学校国際経済科）
《事業内容》消費者自らの手による消費者のための商業

大学生の部

MSA〈代表者〉吉戸幹雅（白鷗大学経営学科）
《事業内容》学校・教育機関を対象としたコンサルタント・ソリューションビジネス
充実生活〈代表者〉吉岡浩子（立命館大学経営学部）
《事業内容》ブロードバンドネットワークによる高齢者の生活支援型サービス事業

入賞候補チーム

高校生の部

株式会社リコールネット〈代表者〉幸池達郎（滋賀県立八幡商業高等学校商業科）
《事業内容》高齢者の知識や技能を豊かな社会づくりに活かす

京芸堂Bグループ〈代表者〉林 健吾（京都府立商業高等学校）
《事業内容》京都の伝統工芸を使った新ビジネスプランの提案（漆）

京芸堂Aグループ〈代表者〉宮澤良子（京都府立商業高等学校）
《事業内容》京都の伝統工芸を使った新ビジネスプランの提案（金彩友禪）

ラテックス〈代表者〉川岸雅彦（河瀬高校普通科）
《事業内容》路面電車を使ったまちづくり

アポロ〈代表者〉片淵義男（大津商業高校国際経済科）
《事業内容》ガーデニングを使った植林事業

大学生の部

株式会社TAKADA〈代表者〉土田純子（武庫川女子大学生生活環境学部生活情報学科）
《事業内容》手軽に利用できるコンサルティング型サプリメント・スポーツ

ACT〈代表者〉榎田倫道（滋賀県立大学環境科学部生物資源管理学科）
《事業内容》自発的なコミュニケーション形成とその実現を目標とした長期的なまちづくり

ゆあミュージック工房〈代表者〉荒井量司（滋賀大学経済学部）
《事業内容》オーダーメイド・ミュージックの配信

※上記のチームには、後日審査委員会より最終発表プランに向けた事業計画書のブラッシュアップのためのアドバイスが送られます。それらを元に最終発表にむけてプランのまとめに入ります。

近江商人の共通の経営理念である「三方よし」は、企業倫理の問題が大きく取りざたされている中、普遍的な企業人の経営の基本であることが周知されてきました。しかしながら、時代を担う若い世代のひとびとが、世間よしに代表される「三方よし」の理念をどのように感じ取っているのか、さらには、21世紀に企業経営として「三方よし」(ビューティフルビジネス)をどのような形で取り込もうとしているかを

主眼として、今回のコンペティションの開催を企画しました。応募されたビジネスプランからは、地域活性化、高齢者問題、環境問題など多岐にわたり現代社会において今問われている重要な課題への提案がありました。中には今すぐにも起業できそうな実現性の高い作品もみられ、今後の展開が楽しみです。コンペティションの動向についての詳細は下記ホームページをご覧ください。

<http://akindo21.org/plan>

【応募内容】

応募総数57件
大学の部42チーム／高校の部15チーム

地域活性化 10、ネットビジネス 8、
高齢化関連事業 7、教育（不登校対策など）6、
環境（ゴミ処理など）4、ユニバーサルデザイン 3、
健康 3、流通 3、ペット 2、観光 2、災害対策 2、
娯楽 2、その他 5

十月二十四日最優秀賞受賞をめざし最終事業プラン製作中！

てんびん棒

新しい世紀を迎えた本年、滋賀県では県民の自由な発想とアイデアによる夢・舞めんと2001の事業が県内各地で展開されている。中にはNPO法人を持った団体もあるが、多くは市民の手作りの活動である。とりわけ環境に関するテーマが多いが、現代社会の課題に肉薄したテーマもみられ、近江商人をテーマとしたものも何件かエントリーされている。滋賀県は今回の企画に大きな予算を計上し、県民はその恩恵で通常以上の大きなイベントが行えるが、その真価が問われるのは、来年以降である。夢・舞めんとは今から行動をおこそうということが主眼となっているが、はたして今年の事業や催しが新しい県民パワーへと継承できるものはどれくらいあるだろうか。

21世紀は社会のシステムが大きく変わると予測される。まさに大激震の世紀が始まった。本号では近江の先人が時代の変革期に機敏に対処した事例にスポットをあてたが、如何であったろうか。先人に学び、さらに新しい時代における対処については本年の国際AKINDO会議とともに学びたいものである。何卒多くの参加頂けることを期待している。